

牛伝染性リンパ腫ウイルス *pol* 遺伝子を標的とした プロウイルス量に基づく伝播リスク分類基準の設定

西森朝美¹⁾ 小原潤子²⁾ 安藤清彦¹⁾ 松浦裕一^{1)†}

- 1) (国研)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台3-1-5)
2) (独)北海道立総合研究機構 畜産試験場 (〒081-0038 上川郡新得町西5線39)

(2023年7月3日受付・2023年11月6日受理・2024年2月3日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/2/77_e7/_article-char/ja

要 約

本研究では、牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) のプロウイルス量を測定可能な市販キット3種類 (tax法, LTR法, pol法) のうち, pol法の伝播リスク分類基準の設定を目的とした。疑似BLV陽性検体を用いて, 各キットを異なる条件下で比較したところ, tax法は相対的に測定値のばらつきが生じやすいことが示唆された。そこでLTR法-pol法間の単回帰分析から, pol法の基準値は100,000細胞あたり12,000コピー以上を高リスク, 3,000~12,000コピーを中リスク, 600~3,000コピーを低リスク, 600コピー未満を超低リスクと設定した。この基準による判定は, 既存のLTR法による判定とおおむね一致し, またリンパ球増多症の個体の9割以上を高リスクに分類できたことから, 農場のBLV対策において有用と考えられる。

—キーワード: 牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV), pol法, プロウイルス量, 定量的PCR, 伝播リスク分類。

-----日獣会誌 77, e7~e13 (2024)